

## 名大型中等教育モデルの探求

名古屋大学教育学部附属中学校高等学校 植田 健 男

戦後、わが国の中等教育は画期的な学校制度改革により飛躍的な発展を遂げてきたが、それは単なる量的拡大だけにとどまるものではなかった。しかし、同時に、その後わが国が高度経済成長政策に入っていくなかで、特に高校教育は、内容的にも制度的にも大きくその中身を変化させていったことは周知のとおりである。

本来、中等教育が青年たちがやがて一個の社会人として社会生活を営むために必要な基礎的教養の教育、および職業準備教育を行うことをねらいとしており、高等教育に進むことも職業の世界へ入ることも選択可能とするような教育であるべきことを考えると、今日の中等教育の現状には誠に厳しいものがあり、今まさにその在り方そのものが鋭く問われていることは、私たちが受け止めなければならない重要な事実である。

本校は、2000（平成11）年に国立学校としては唯一の併設型中高一貫校に認定され、さらに2006（平成18）年からはスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）の研究開発指定を受けて、あるべき中等教育の創造と発展に向けて研究開発に務めてきた。冒頭に述べたような認識から、理科系を中心として即「成果」を上げることのできる狭義の「人材確保」策に貢献するようなものではなく、文科系・理科系の壁を超えて、すべての生徒たちに（しかも、中学生の段階から）、本来のサイエンス・リテラシーの形成を図ること、そして、学問の本質的な部分や、自立した人間として社会生活を営むことについて生徒たちに十分に目を向けさせ、そのまま高等教育における学問の世界にスムーズに接続できるような能力を身に付けた高校生を育てることを目指してきた。

これが私たちが言うところの「名大型中等教育モデル」の最も核心をなす部分であり、そして、こうした試みの成果は、これまでも附属学校の教育を受けて高等教育へと進んだ卒業生たちが、それぞれの身の置き場で実証してくれているものと固く確信しているところであるが、この間の取り組みによって、なお一層それを確かなものにしていけることと考えている。

併設型中高一貫校であることから高等学校の下には中学校を、そして、非教員養成系ではあるが国立大学教育学部の附属学校であることから、中学校・高等学校の上には大学・学部を持つという、誠に、特筆に値する恵まれた条件を備えている。さらに、本校の場合は、中学校・

高等学校が大学と同じ校地内にあるという絶好の地理的条件をも兼ね備えており、生徒たちはいつでも大学のなかでの学びに入っていくことが可能であるし、同様に、大学の教員に附属学校に来て頂くこともできる。

冒頭で述べたことは、何も名古屋大学に限らずとも、すべての大学で求められていることである。名目や形式に走ることなく、すべての高等教育機関と中等教育機関との間で「真の中高大連携」を行うことによって、中等教育の改善と開発にとどまらず、高等教育においてもあるべき教養教育の再構成、および専門教育の改善や開発の可能性にも繋がるものと考えている。

今回の研究紀要には、本校におけるこうした研究開発の第二年次の成果についてとりまとめられたものが所収されている。私たちのこうした試みについて、皆さまから忌憚のないご意見・ご批判を賜れば幸いである。

今後も、本校は、研究重点大学である名古屋大学との全面的な協力関係のもとに、中等教育の在り方について研究を進め、それをもとに教育実践を発展させる所存である。これまでと変わらぬご指導、ご鞭撻をなにとぞ宜しくお願い申し上げたい。